

令和6年9月25日  
文教委員会資料  
品川図書館

令和5年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

総括シート〔令和5年度〕

施設名称	品川図書館Aグループ（荏原図書館、ゆたか図書館、源氏前図書館）
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入館者数（人）	497,222	482,908	483,783
全登録者数（人）	42,202	45,007	47,560
全貸出総数（点）	835,056	806,720	777,670
予約処理件数（件）	321,352	301,402	288,939
レファレンス件数（件）	14,158	12,446	13,621
児童おはなし会参加者数（人）	914	1,818	1,875

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収 入	指定管理料	239,266,000	238,198,000	249,929,000
	複写サービス収入	332,370	376,200	425,450
	小計	239,598,370	238,574,200	250,354,450
支 出	資料費	44,314,075	44,313,124	46,474,950
	光熱水費	3,352,741	3,998,385	3,303,667
	小破修繕・補修工事費	1,006,060	915,255	872,498
	備品購入費	2,456,300	603,900	550,000
	人件費	173,005,089	175,405,521	180,642,871
	その他運営経費	15,044,489	15,147,806	17,310,275
	小計	239,178,754	240,383,991	249,154,261
差引収支		419,616	△1,809,791	1,200,189

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した事項）

- 生徒のおすすめ本アンケートやビブリオバトルなど近隣中学校図書館との連携事業を行い、地域とのつながりを重視しながらティーンズの利用推進を図っている。
- 商店街や福祉施設との連携を通じて互いに行事やイベントに積極的に参加するなど、新たな利用者の獲得に向けて努力をしている。
- エコルとごしとの共催事業や児童コーナーにてSDGsを紹介しており、環境問題について書籍をとおして親子で考えられる機会を積極的に提供している。

（改善が必要な項目）

- 利用者満足度の更なる向上に向けて、研修等を通じた職員のスキルアップに努めること。
- 学校、商店街、近隣福祉施設との連携事業など、利用率向上に向けて引き続き努力すること。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 従事職員の接遇やスキルアップに努めるとともに、カウンターの整理整頓や消火器の表示位置の検討など施設管理も含め、更なる利用者満足度の向上に期待する。
- 近隣施設との連携事業を継続するとともに、新たな利用者獲得のため工夫した事業の実施に取り組むこと。

## 「評価の視点」別のコメント

### 1 区民満足の視点

- 利用者アンケートの結果による利用者満足度について、3館平均して80%の利用者が高い満足度を示しており、一定程度の水準を維持している。(荏原図書館78%、ゆたか図書館80%、源氏前図書館82%)
- 定例おはなし会に参加できない利用者に向け、曜日・時間をずらしたおはなし会を実施するなど、利用者目線に立ってより多くの層にサービスを届ける努力を行っている。

### 2 予算執行（財務）の視点

- 適切な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。
- 特に資料費については区と密に連携を図り購入する書籍について検討を重ね、適切に執行している。
- 複写サービス収入は令和4年度と比較し上回っている。

### 3 サービス向上および業務改善の視点

- 様々な事業や周知活動を通じて、認知症カフェの認知度を大きく向上させている。
- 職員に向けた資格取得の推奨など、サービス向上に向けて努力をしている。

### 4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- Aグループは、(株)図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理業務を受託し、一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施している。月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり情報の共有が図れるよう工夫と体制を整えている。また、月1回の地区館長会、各事業担当者会等において、品川図書館と意見交換や連絡調整が適切に行われている。
- 個人情報に関する書類の保管や廃棄手順について厳密にルールを定め、適切かつ確実に実施している。
- 昨年度と比較し事務室内のコピー枚数が半減しており、職員全体のペーパーレス意識の向上が見られ、評価できる。

---

## ※ 区政運営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、利用者アンケート等により利用者の要望を確認し、利用者のニーズや特性に配慮したサービスの提供に努めるとともに、研修を通して、職員のスキルアップに努めること。

総括シート〔令和5年度〕

施設名称	品川図書館Bグループ（大井図書館、南大井図書館、八潮図書館）
指定管理者	株式会社ヴィアックス
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入館者数（人）	439,584	434,173	406,007
全登録者数（人）	34,473	36,497	38,544
全貸出総数（点）	774,062	731,950	704,737
予約処理件数（件）	310,144	277,407	272,589
レファレンス件数（件）	8,431	7,482	7,323
児童おはなし会参加者数（人）	1,226	1,685	1,768

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収 入	指定管理料	227,683,000	228,716,000	239,512,000
	複写サービス収入	400,050	453,990	425,724
	小計	228,083,050	229,169,990	239,937,724
支 出	資料費	37,232,914	37,232,971	39,048,552
	光熱水費	12,626,138	14,403,200	12,447,920
	小破修繕・補修工事費	999,685	1,257,789	1,499,640
	備品購入費	2,456,000	598,400	599,600
	人件費	140,506,000	140,506,000	146,057,000
	その他運営経費	32,069,743	34,586,748	34,758,714
	小計	225,890,480	228,585,108	234,411,426
差引収支		2,192,570	584,882	5,526,298

## 総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

### （積極的に評価した事項）

- ▶ Web アンケート調査の導入提案、利用者ニーズをとらえた資料の配置替え、大井町を題材とした地域資料展示の強化や地域団体との連携強化など、利用促進に向けて積極的に努力している。
- ▶ 周辺地域との連携事業として、近隣の幼稚園、保育園、小学校において、おはなし会および出前授業を行い、図書館の広報活動を精力的に行っている。
- ▶ 本のリサイクル市を実施して多くの本をリサイクルするとともに、募金を行い、社会福祉協議会への募金に貢献されている。
- ▶ 認知症カフェの認知度を大幅に高めているのは、カフェ通信や常設展示などに努めた結果であり、高く評価している。

### （改善が必要な項目）

- ▶ 地域の施設（しながわ水族館、キネカ大森など）の特性に沿った展示は評価できるので、関連資料のさらなる充実を望む。
- ▶ 各図書館の特性に沿った情報発信や利用促進について、既存の事業を継続しながら新たな取り組みを求める。

## 改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- ▶ ティーンズ等若い世代に向けた情報発信や高齢者の多い地域特性に沿った利用促進など、利用率を高めるために積極的な事業展開を期待する。
- ▶ 高い利用者満足度を維持できるよう、引き続きサービス向上に努めること。

## 「評価の視点」別のコメント

### 1 区民満足の視点

- ▶ 利用者アンケートの結果による利用者満足度について、一定程度の満足度を維持している。（大井図書館 91%→91%、南大井図書館 74%→73%、八潮図書館 83%→90%）特に大井図書館は4年連続で90%を超え、継続して高い満足度を得ている。
- ▶ 読書ノートを活用した企画や利用者ニーズをとらえた資料の配置替え等利用者目線で運営を行っており、利用者満足度の高評価につながっている。

### 2 予算執行（財務）の視点

- ▶ 予算執行にあたっては、資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費、施設維持管理費、事務費等年間計画を立て、本社経理担当および公認会計士による確認を行い、適正執行に努めている。修繕や備品購入に関しては事前に品川図書館と協議を行い、計画的に執行している。
- ▶ 資料費については各館で資料収集計画を立て、計画的な執行と資料の充実に努めている。
- ▶ 支出については概ね計画どおり執行できている。

### 3 サービス向上および業務改善の視点

- Web アンケート調査の導入提案や利用者ニーズをとらえた資料の配置替えなど、サービス向上や業務改善に積極的に取り組んでいる。
- 多くのパスファインダー（利用者に資料を探す手引き）が作成され、利用者に活用されている。また、児童向けにも作成していることを高く評価する。

### 4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 司書資格取得に向けた支援に努め、グループ全体の有資格者配置率は 61% と高い水準を維持している。（大井図書館 61%、南大井図書館 69%、八潮図書館 54%）
- 年間研修計画に基づき、本社での研修および館内整理日を活用した研修を実施し、図書館サービスの基本となる接遇やレファレンス力の向上に努めている。

---

## ※ 区政運営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、地域との連携や若い世代に向けた情報発信を推進し、入館者数や貸出数の増加に努めること。

総括シート〔令和5年度〕

施設名称	品川図書館Cグループ（五反田図書館、大崎図書館、大崎図書館分館、二葉図書館）
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入館者数（人）	623,115	637,754	652,549
全登録者数（人）	59,398	63,848	68,391
全貸出総数（点）	1,033,763	997,986	976,244
予約処理件数（件）	430,638	400,508	391,082
レファレンス件数（件）	18,041	19,390	19,700
児童おはなし会参加者数（人）	1,716	2,749	2,478

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収 入	指定管理料	311,405,000	308,513,000	321,558,000
	複写サービス収入	440,620	462,310	442,490
	小計	311,845,620	308,975,310	322,000,490
支 出	資料費	58,074,021	55,351,332	58,079,903
	光熱水費	2,095,563	2,286,146	1,997,000
	小破修繕・補修工事費	970,329	1,032,086	1,970,220
	備品購入費	1,503,400	600,300	801,000
	人件費	229,909,903	232,409,923	240,124,448
	その他運営経費	18,840,553	18,482,970	18,978,464
	小計	311,393,769	310,162,757	321,951,035
差引収支		451,851	△1,187,447	49,455

<p>総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）</p> <p>（積極的に評価した事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域との連携事業をとおり、地域の図書館として知名度を上げるとともに、貸出数の向上を図るなどサービス向上に努めている。</li> <li>▶ 来館者数が前年度を上回るなど、全年齢層に向けた積極的な事業展開をとおり利用促進に向け努力している。</li> </ul> <p>（改善が必要な項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 従事職員の資格取得について、引き続き積極的に働きかけること。</li> <li>▶ 入館者数が前年より増加しており連携事業などの成果がよく表れているが、貸出件数が減少しているため引き続き利用促進に向けて努力を求む。</li> </ul>
--

<p>改善が必要とされた原因の分析および対応方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 資格取得について引き続き働きかけを行うとともに、新規採用等を通じて資格取得率向上に向けて努めること。</li> <li>▶ SHIP やプラネタリウムなど近隣施設との連携事業や各世代向けの事業を引き続きおこない、利用率向上にむけて努めること。</li> </ul>
--

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 利用者アンケートの結果による利用者満足度について、4館とも80%を超える水準を維持している。（五反田図書館83%、大崎図書館80%、大崎図書館分館88%、二葉図書館82%）</li> <li>▶ アンケートで実施希望の多かった英語のおはなし会を開催するなど、利用者のニーズに沿った事業展開をしており、高い満足度につながっている。</li> <li>▶ 地域センターとの連携で区民まつりにも初めて参加し、しながわ観光協会との連携事業で「品川宿」の特集展示をするなど、新たな連携先を構築するとともに地域に根差した図書館を目指しており、利用者に寄り添った運営を行っている。</li> </ul>
---

2 予算執行（財務）の視点

<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 適切な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。</li> <li>▶ 特に資料費は区と密に連携をとり新しく購入する書籍について十分に精査し、利用者のニーズも踏まえ打合せを重ねたうえで適切に購入している。</li> </ul>
---

3 サービス向上および業務改善の視点

<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 漏水事故や空調設備改修工事など図書館運営に支障となる事象が多くあったが、その都度工夫を凝らした運営を行い、高い利用者満足度を維持している。</li> <li>▶ 利用者の希望するテーマに沿ったセット貸出である「コンシェルジュ3点セット」は、対応に時間がかかる事業であるが、利用者満足度が非常に高い。</li> </ul>
---



#### 4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- Cグループは、(株)図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理業務を受託し、一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施している。月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり情報の共有が図れるよう工夫と体制を整えている。また、月1回の地区館長会、各事業担当者会等において、品川図書館と意見交換や連絡調整が適切に行われている。
- 個人情報に関する書類の保管や廃棄手順について厳密に指定し、正確かつ確実に実施している。
- 事故発生時の連絡フローが決められており、緊急時はスタッフ全員が対応できるように構築されており高く評価できる。

---

#### ※ 区政運営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、利用者アンケート等により利用者からの意見や要望を積極的に取り入れるとともに、地域や施設同士の連携を推進することで、利用者満足度の維持・向上に努めること。

## 令和5年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

- 1 子育て応援課 所管施設
  - ・品川区立家庭あんしんセンター
- 2 保育入園調整課 所管施設
  - ・品川区立就学前乳幼児教育施設（ぷりすくーる西五反田）

総括シート〔令和5年度〕

施設名称	品川区立家庭あんしんセンター
指定管理者	社会福祉法人 福栄会
施設所管課	子ども未来部 子育て応援課

<設置目的>

母子家庭に対する自立生活支援および子育て家庭に対する育児支援を図る。

指定管理業務の概要	
(1) 母子生活支援施設（ひまわり荘）、子育て支援センター、ファミリー・サポート・センターにおける事業運営に関すること。 (2) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用承認および承認取消に関すること。 (3) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用に係る利用料金の徴収に関すること。 (4) 施設等の維持および修繕に関すること。	

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
来館者数(人)	2,035	4,258	3,936
ショートステイ実施件数（延宿泊数）	173	325	322
トワイライトステイ実施件数（延利用回数）	543	1,030	1,054

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）				
	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収 入	管理運営委託料	139,292,186	140,494,618	148,180,702
	子育て短期支援事業利用料等	1,495,325	3,179,630	3,589,443
	処遇改善補助金・雇用調整助成金など	322,863	2,060,721	0
	小計	141,110,374	145,734,969	151,770,145
支 出	人件費	113,950,459	125,289,510	137,648,499
	事業費	2,184,692	2,217,293	2,096,470
	事務費（維持管理・修繕費等）	33,438,451	33,081,732	32,425,351
	小計	149,573,602	160,588,535	172,170,320
差引収支		△8,463,228	△14,853,566	△20,400,175

<p>総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）</p> <p><b>【評価事項】</b></p> <p>○ひまわり荘では、自立支援計画票等に基づき母親の支援を行い、コロナ禍においては、日常的な会話や生活場면을捉えて丁寧に取り組み、見えてくるニーズや課題を適切に把握していた。また、互助会として母親等に提供する情報交換や学びの場を活用し、外部の講習会の情報提供やその時々での情報交換などに努めていた。特に、現入所者の子に乳児が増えたこともあり、離乳食の作り方や子育てに関するアドバイスを積極的に取り組んでいた。</p> <p>○子育て短期支援事業(子どもショートステイ・トワイライトステイ)については、令和4年度から受入れ対象を従前の「1歳半～小学6年生」から「1歳～中学3年生」へ拡充し、幅広い利用者ニーズに対応している。また、感染拡大防止対策に徹底し、前年度よりも利用件数を伸ばすことができた。</p> <p>○子育て広場(「フラっと広場」)では、月2回程度、親子遊びの楽しみが体験できるイベントを新たに開催し、利用者が参加しやすいイベントの雰囲気積極的に創る工夫をした。</p> <p><b>【改善事項】</b></p> <p>○人材育成の促進、事故防止の取り組み強化。</p> <p>○子育て短期支援事業の受入れ年齢を拡大・利用者増による、職員体制の強化。</p> <p>○ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の増強。</p>
--

<p>改善が必要とされた原因の分析および対応方針</p> <p>○子育て短期の利用対象が1歳～となったことに伴い、受入れ側の職員体制に有資格者(保育士)を令和5年度から配置した。</p> <p>○質の高いサービス提供ができるよう、積極的に外部研修への参加や、外部講師による施設内全体研修を実施し、職員のスキル向上に努めていく。</p>
---

## 「評価の視点」別のコメント

### 1 区民満足の視点

<p>○各事業において、利用者からの意見・要望については、日常会話、互助会行事、意見箱や苦情解決制度などさまざまな方法で情報収集し、迅速な対応と事業の改善に取り組んでいる。</p> <p>○母子生活支援施設では、令和4年度に「福祉サービス第三者評価」を実施し、利用者からは概ね高評価であったため、さらなるブラッシュアップを図り、よりよい施設運営を目指す。</p> <p>○子育て短期支援事業では、利用前に事前面談を行い、子どもや家庭の状況確認を行うとともに、利用後は受入時の様子について報告を行うなど、保護者からの要望や意見を伺う機会を設け、サービスへ反映させている。</p> <p>○ファミリー・サポート・センター事業では、利用前に事務局と事前面談を、条件に合う提供会員が見つかった段階で、顔合わせを行うなど、保護者とのやりとりを密に行っている。また、提供会員と依頼会員を集めたイベントを年1回開催し、積極的な交流を図っている。</p> <p>○老朽化していたエレベーターの改修工事にあたっては、地震時における緊急停止時の自動復旧機能やタッチレスボタンの採用など、利用者の安全性・利便性に配慮した仕様とした。また、施設利用者が授乳室を安心して利用できるよう、内鍵を設置した。</p>
--

## 2 予算執行（財務）の視点

- 管理運営委託料は適切かつ計画的に執行している。また、予防的修繕を行い、施設維持管理経費の削減に努めるほか、光熱水費の節電など、様々なコスト削減に取り組んでいる。利用料金収入は、環境整備や安全の確保など利用者サービス向上のために充てている。
- 近年は人件費の増加分を光熱水費や施設修繕費の節減で補っていたため、指定管理料の増額を行わなくとも収支状況は比較的安定していたが、直近では人件費高騰のほか、非常勤職員の募集を行うものの応募がなく正社員を充てるなどの対応に加え、物価高による消耗品費、光熱水費の増などが重なり、収支を圧迫している状況。
- 令和5年度については一定程度の人件費増や光熱水費分の増を見込み、指定管理料の増額を行っているが、今後は昨今の職員採用状況の厳しさや物価高騰に十分に配慮し、今まで以上により実態に即した経費算定等を行うとともに、指定管理者と予算執行状況を定期的に情報共有し、適切な執行と赤字改善に向けて密に連携を取っていく。

## 3 サービス向上および業務改善の視点

- 各事業ごとに目標値を設定し、達成に向けて常に取り組んでいる。また、日々の業務については、職員会議等で改善策を図っている。
- ひまわり荘では、毎月の互助会行事やアンケート等により、利用者からの要望・意見を把握し改善に活かすとともに、退所家庭のアフターケアの継続実施と充実を図るなど、着実な自立支援をサポートしている。課題の多いケースも増えていることから、関係機関との情報共有や連携について、より積極的に働きかけていく必要がある。
- ファミリー・サポート・センター事業では、サービス内容に関する紹介動画作成し、従来、依頼会員の登録には、来所による手続きを必須としていたが、書類の郵送による登録手続きも認めることで簡素化を図った。
- 子育て短期支援事業では、従来まで、利用の事前面談を必須としていたが、利用者からの声に基づき、前回の利用から期間が経過していないものに関しては、郵送による書類の手続きも可能とするよう改善を図った。また、5年度より、食物アレルギーを有する子どもの受入れを開始するにあたり、事故の未然防止や緊急時の対応等について、運用マニュアルの見直しを図るとともに、整理を行った。
- 子育て短期の受入れ年齢を拡大したことで、4年度から実施している別事業「乳幼児ショートステイ」（0～1歳未満）とのサービスの接続についても円滑にいくよう子ども家庭支援センターと連携し、運用していく。
- 育児疲れ、育児不安を理由に子どもショートステイを利用する場合、子ども家庭支援センターと連携し、事前面談を実施。家庭状況や子どもの様子を確認し、必要に応じてケースワーカーに繋ぐことで、虐待の未然防止、早期発見に取り組んだ。

## 4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 各種事業において、想定されていない事案が発生した際には、その都度、子育て応援課や子ども家庭支援センターと協議し対応した。
- 各事業間連携が図られており、庶務・人事・経理などは法人本部と連携・情報共有しながら効率的な業務執行に努めている。また、事業実施等についても常に区と連絡調整を行いながら適切に実施している。

- 居住施設（ひまわり荘）と不特定多数が利用する子育て支援事業は併設されているため、職員全員が館内事業について共通認識を持つとともに、不審者の入館等の防止の観点から「不審者対応マニュアル」を徹底し、施設の安全強化に努めている。
- 防災マニュアル等に基づき、月1回の防災避難訓練を実施している。また、震災対策として、職員に対して震災マニュアルの理解徹底を図り、防災対応に万全を期した。

---

## ※ 区政運営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き研修等を通じた職員のスキル向上に努めるとともに、人員体制について検討し、効率的で質の高いサービスを提供できるよう努めること。

総括シート〔令和5年度〕

施設名称	品川区立就学前乳幼児教育施設（ぷりすくーる西五反田）
指定管理者	社会福祉法人福栄会
施設所管課	子ども未来部保育入園調整課

<設置目的>

小学校就学前の乳幼児に対し、保育園および幼稚園の相互の特色を生かした保育および教育を継続的かつ一体的に実施することにより、乳幼児の健全な育成を図るとともに、地域における子育て家庭を支援する。

指定管理業務の概要	
(1)	保育園、幼児教育施設およびふれあい交流室における事業の運営に関すること。
(2)	延長夜間保育の利用の承認および承認の取消しに関すること。
(3)	幼児教育施設の入園の承認ならびに入園の制限および退園に関すること。
(4)	預かり保育の利用の承認に関すること。
(5)	利用料金の徴収に関すること。
(6)	施設および設備の維持・修繕に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要			
項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数（人）	月平均 120 人	月平均 120 人	月平均 116 人
ふれあい交流室入館者数	月平均 233 人	月平均 354 人	月平均 333 人
オアシスルーム利用者数	月平均 90 人	月平均 140 人	月平均 139 人

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）				
	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収	管理運営委託料	232,949,333	229,443,134	239,169,028
	利用料金等	10,194,373	10,535,759	11,425,674
入	小計	243,143,706	239,978,893	250,594,702
支	人件費	158,137,883	151,219,771	166,263,574
	事業費	23,234,266	24,951,145	24,588,516
	事務費等	53,666,843	72,472,653	60,029,357
出	小計	235,038,992	248,643,569	250,881,447
	差引収支	8,104,714	△8,664,676	△286,745

## 総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

- ・「社会福祉法人福栄会」へ指定管理が移行され3年経過し、これまで前指定管理者が運営してきた保育・幼児教育に加え、社会福祉法人の強みを生かし援助の必要な園児への対応で力を発揮し、サービスを向上している。
- ・日々の各クラスの状況を報告する体制会議を毎日開催するほか、職員会議を定期的を実施するなど、職員一人ひとりが園運営や課題について考える習慣を身に付けるよう努めている。
- ・オアシスルームではキャッシュレス決済を導入し、支払い方法の多様化を実現した。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、隣接するシルバーセンターまつりに参加するなど、これまで縮小していた事業を再開するとともに、新規事業として保育士体験を実施するなど利用者の満足度向上に努めた。
- ・開園から20年が経過し、建物・設備・備品等の老朽化が進んでいる点が課題である。

## 改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- ・施設の老朽化対応では、利用者の安全確保のため計画的な備品購入・修繕工事を実施していく。
- ・人材育成について、引き続き区・都・法人の研修を3本柱とし、様々な研修テーマを受講することで職員の資質向上に努める。

## 「評価の視点」別のコメント

### 1 区民満足の視点

- ・品川区独自の就学前乳幼児教育施設として、特色ある活動および施設運営を行っており、令和5年度に実施した東京都福祉サービス第三者評価においても、保護者の満足度は保育園部門において91.9%、幼児教育部門において97.1%と、高い水準であった。
- ・令和5年度に実施した利用者満足度調査において、「優良」の総括評価を得ている。

### 2 予算執行（財務）の視点

- ・収入については、オアシスルーム利用料等を適切かつ計画どおりに収入を得られている。
- ・支出については、新たに天井扇を設置し熱中症対策を講じるなど利用者満足度の向上に努めている。
- ・人件費の増については、0歳児クラスにおいて正規職員を1名加配し、0～3歳児クラスで新たに保育士体験に取り組んだ結果、保護者が子どもの育ちを理解し子どもにとってより豊かな成育環境を築くことに繋がるなど、園全体の保育サービスが向上し、利用者満足度が高まった。

### 3 サービス向上および業務改善の視点

- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、園行事やふれあい交流室の各種事業を一つひとつ見直しながら実施した。
- ・日本の伝統文化や他国の文化に触れる機会として、お茶会、生け花、外国人講師による英語など、子どもの発達や興味・関心に合わせて様々なプログラムを用意し、保育・教育を展開した。
- ・屋上で栽培した野菜を食べる、正月やひなまつりなど行事の際には行事食を食べる、世界の料理を給食で提供するなど、給食委託業者と連携し「食育」の強化に努めた。
- ・業務改善について、職員会議を定期的で開催し、適宜検討・改善できるように努めた。事案によっては、緊急職員会議や研修等を開き、職員全体で対応方法の検討・改善に努めた。



#### 4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- ・児童福祉法による保育所・幼稚園運営にあたる適切な人員を配置し、適切な組織運営が行われている。
- ・職員研修の柱を「法人主催研修」「品川区プロフェッショナルスクール」「東京都福祉保健局」の3本柱とし、職層や研修テーマに合わせて受講者名入りの研修計画を作成し、積極的に研修に参加できる環境を整えた。研修受講後は報告の提出を徹底させ、職員の保育力向上の一助になった。
- ・令和5年度から「安全計画」の策定が義務付けられたため、令和5年4月に策定し、施設・設備の安全点検(遊具・防火設備・公園等)、災害、不審者の観点から「安全管理研修」を実施した。
- ・法人規定の「個人情報の保護に関する規則」に基づき、個人情報の管理を厳正に行った。

---

#### ※ 区政運営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き新規事業を含む特色ある事業を充実させ、利用者満足度の維持・向上に努めること。また、施設の老朽化には計画的に対応すること。